

AMEBRIETO

N-ro **181**
町田エスペラント会
Esperanto-klubo de Maĉida



学習会のお知らせ

町田市生涯学習センターのフリースペースは、個人学習のみの利用となっているため、学習会は引き続きスカイプを利用して行っています。

インターネットを使える方は、パソコンやスマートフォンに Skype のアプリ(無料)をダウンロードしてご参加ください。カメラ機能がなくても、音声だけで大丈夫です。

「途中から入りにくい・・・」という方は、まずは土曜日午後2時からの“おしゃべりタイム”に参加してみませんか。日本語でも構いませんので近況などお知らせください。

★毎週土曜日 参加者: 明石、上農、桐山、鳥居、永木、早川、山本

14:00～14:45 おしゃべり(babilado)

14:45～15:30 輪読 「Faktoj kaj Fantazioj」

★毎週火曜日 参加者: 明石、鳥居、永木

10:00～11:00 輪読 「Ne forgesu mian voĉon」(9月から)、第2週は、JEI 機関誌

「エスペラント」を使って、「Krucvorto」と11月から再開される「やさしい作文」の課題を解き、「Novaĵoj Hokitaj de Okita」を読んでいます。

★隔週火曜日 参加者: 金子、渡辺 講師: 桐山

13:00～15:00 「Gerda Malaperis !」を使って、聞き取りと作文の練習をしています。



2021年9月

町田エスペラント会 30 周年記念事業について

木村護郎クリストフ

本会の 30 周年記念として、行事を含めていくつか企画していました。行事はコロナのため残念ながら行うことができませんでしたが、二つの発信企画を実現することができました。

(1) 30 周年記念誌『この10年のあゆみ』は、編集の永木正子さんをはじめ会員みなさまのご尽力のおかげで、来し方をふりかえり今後を考えるにふさわしいものになりました。

(2) 世界エスペラント協会(UEA)の電子版会誌 *Reta Revuo Esperanto* に4件投稿し、Monda Kulturo 欄に3件、Beletra rubriko 欄に1件掲載されました。30 周年記念に、エスペラントらしい国際的な発信ができてうれしいことです。内訳は次のとおりです。拙文を含んでいて恐縮ですが、いずれもとても読みがいのある文章ぞろいです。

Beletra rubriko

MISAŬA Seiiĉirou: Nokta Monteto

Monda Kulturo

KIMURA Goro Christoph: Japana tradicia teatro “noo” – ĉu nur teda?

Torii Husako: Kompoŝto farita en kartono

AKASI Humiko: Kiel maljunuloj vivos post emeritiĝo? Ni komencu sekvan vivon de nun

世界エスペラント協会の役員 2020 年度年次報告 (Esperanto 誌 2021 年 6 月号、134 ページ)にも当会の活動が次のように言及されました。

"Estis speciala atento al la datreveno de la Maĉida Esperanto-Klubo en Tokio, kunlabore kun la rubriko *Monda Kulturo* de la *reta Revuo Esperanto*."

UEA の新企画 <Reta Revuo Esperanto / Monda Kulturo > に投稿するまで

上農 百合子

2020 年 6 月 10 日に町田エスペラント会創立 30 周年を迎えるにあたってどのような記念事業を行うか 2019 年ころから 30 周年記念事業検討委員会(土曜日学習会メンバーを中心とした)が話し合いを続けてきた。今の時代にふさわしいものにしたいと考えたが、いい案が見つからないまま年を越した。そんななか、UEA の発行する 'Esperanto' 3 月号の記事 'Vaste kaj plurcele paroli pri Kulturo(寄稿者: Fernando Maia Jr.)' で la Reta Revuo Esperanto が発行されることを知った木村会長の提案で Monda Kulturo 欄に投稿することに決まった。

投稿記事は会報 Amebrieto(11月号)で募集した。また、火曜日、土曜日の学習会参加者に直接依頼した。提出期限の1月末までに送られてきた木村護郎さんの原稿は Monda Kulturo 欄に、実沢誠一郎さんの原稿は Beletra rubriko 欄に 2020 年 3 月に掲

載された。また、身近な日本の生活や文化について、町田市に住む明石扶美子さんと鳥居房子さんが市民生活に関わるテーマを提供してくれたのでそれを投稿することにした(明石さん:Kiel maljunuloj vivos post emeritigo, 鳥居さん:Kompoŝto farita en kartono)。この話し合いは 2019 年 9 月、八ヶ岳エスペラント館での合宿の時に行った。お二人に文章を起こしてもらい、それをエスペラントにするのを上農を中心に行った。日本語の意味とエスペラントの意味が一致するかどうか確かめる時に山川修一さんに(JEI のホームページ:Kursejo を通して)相談した。ほぼ完成した後は桐山雅昭さんに校正をお願いした。

Reta Revuo-Esperanto への投稿

桐山 雅昭

私は Reta Revuo-Esperanto への投稿を担当した。

2020 年早々に、木村護郎クリストフさんと、実沢誠一郎さんが原稿を送ってくださった。早速、Revuo-Esperanto 編集部あてに町田エスペラント会の 30 周年記念行事の一環として日本の文化の紹介を Monda Kulturo に掲載してもらいたいのでよろしくお願ひします、との趣旨を付して原稿を送付したが、しばらく何の音沙汰もなかった。3 月に入ってから、確認のメールを送ったところ、Fernando Maia Jr.(Vicprezidanto de UEA) さんから返事が届いた。それによると 4 月号 Revuo-Esperanto への準備と、コロナ禍対応の UK への取り組み検討などでスタッフが多忙を極めており、返事も遅れて申し訳ないが、3 月 16 日付けで Monda Kulturo と Beletra Rubriko 欄に掲載する旨が説明されていた。また、Revuo Esperanto の 4 月号にも紹介記事を載せるとの連絡もあった。早速、Revuo を確認し、皆さんにお伝えした。なお、記念誌の当該欄に Revuo-Esperanto の 4 月号のページとロゴマークのコピーを記載することにつき、お願ひし快諾を得た。

取りあえず、第一弾が完了して一息ついているところに、Maia さんから当会のメンバーリストを送ってほしいとのこと。理由は UEA の会員でない人に、会費なしでの会員制度のようなことも含めて、いかに入会してもらうかを検討するためとのこと。土曜例会で皆さんと相談の結果、メンバーリストは送らず、会員数と、UEA 会員数だけを連絡したが、これについては Maia さんから何の返信もなかった。

4 月に入り、第 2 弾として明石芙美子さんと鳥居房子さんの原稿が上農百合子さんによってエス訳されたので、若干の手直し後 Revuo-Esperanto に送付した。ところが今回は、前回以上に何の返信もなく、5 月中頃に確認メールを Maia さんに送ったが、これにも音沙汰がなかった。コロナ禍により UK が Virtuala Kongreso となり、Maia さんがその責任者であることから、多忙のため手が付かないのだらうと思って、それ以上の督促をしないことにした。いつまで待っても連絡が来ないので、今回は投稿者が二人とも UEA の会員でないので載せてもらえないのかな、などと心配になった。12 月に入ってついに Maia さんでなく、Revuo-Esperanto 宛に問い合わせたところ、すぐに実際に編集を担当

している Dima kaj Anna さんから、状況を確認して連絡しますとのメールが入った。しかし、待てども待てども連絡が来ないまま、時が流れていった。

今年(2021年)、6月のスカイプ例会で、たまたま、この件とは関係のない Revuo についての話題がでた折に、永木正子さんがインターネットで Revuo を検索したところ、なんと1月に Revuo の Monda Kulturo 欄にお二人の原稿が掲載されていることが分かった。その後 Revuo-Esperanto 2021年6月号に、町田エスペラント会の30周年の祝福と、原稿投稿の活動について紹介されていることが分かり、「やっと、責任が果たせた」と安堵した。

Ni danku al niaj bravaj redaktoroj !!

UEA への投稿について

鳥居 房子

2019年の合宿の時にふと漏らした言葉から、町田市で市民向けに開かれているダンスボールコンポスト教室に参加した体験を UEA に投稿することになりました。

日本語の原稿は直ぐに書けたのですが、エスペラント語にするのは大変でした。日本語特有の言い回しとエスペラント語の表現との差を痛感しました。結局、上農さんに全面的に助けていただくことになりました。その節はありがとうございました。

そして、忘れた頃に UEA の電子版会誌に載り、思いの外写真がきれいだったことが嬉しかったです。どのくらいの人目に留まったかな？と、ちょっと気になるところです。

また、これをプリントして日本語訳と共に市役所の環境係に送ったら喜ばれるかしら？少しはエスペラント語の宣伝にもなるかしら？と思ったのですが、プリントがうまくできず、思っただけになってしまいました(.;)。

「人生これからクラブ」の誕生と結末

明石 芙美子

今から約60数年前昭和30年頃、原町田駅の東方1kmほどのなだらかな柴山が、住宅地として売り出され、ぼつぼつ人が住み始めました。昭和34年、芝公園自治会が作られ、下水道、道路舗装、街灯の設置などを市に要求しました。昭和54年頃これらの要求が受け入れられ、だいぶ住みやすくなりました。昭和58年には、南下の芹ヶ谷が、公園として整備され、昭和62年に国際版画美術館が造られ、環境も良くなりました。

平成2年頃よりサラリーマンとして働いていた方たちの定年退職が始まり、主婦たちも子供が成長し、ゆとりができてきたころの平成10年3月、自治会で会員の一人が、「老後を考える会を作ったらどうか」と提案、それは、今までの老人会のようにではなく生きがいのある老後のことであるという説明がありました。それですぐさま賛成が得られ、10人の委員が選ばれ、あとは、とんとん拍子で、名前は「人生これからクラブ」と決まり、会則が作ら

れました。

主な活動は、1、福祉活動 先輩を囲む会、公園清掃、皆が集える会(お月見、忘年会、バス旅行など)、2、生きがいを高める会 趣味等を生かした会(音楽、映画、芝居、囲碁、将棋など)、3、健康を高める会(体操、ハイキングなど)、ほかに、広報紙「人生これからクラブだより」を平成17年度から毎月、19年度からは隔月に発行していました。

経費は、一人100円の会費のほか寄付金、市からの補助金で運営し、会員数は、当初は、125名、平成21年は137名、令和元年は110名でした。

こんな具合で事業の中の「生きがいを高める会」と「健康を維持する会」は、それぞれ発案者がリーダーになって活動していたので自治会の中で活動が続けるとができたのですが、肝心の組織を維持する人材が、高齢のために活動することが難しくなり、20年間続けられた組織は、今年の3月で解散することになりました。

(Reta Revuo に投稿した内容を伝えたくて日本語で書きました。)

感想と反省

山本 美郷

「身近な日本の生活や文化について」というお題をいただき、私なりに、何度も自分の生活を振り返ってみたのですが、テーマが見つからず、スルーしてしまいました。

そんななか、明石さんと鳥居さんの書かれたものを読んで、そうだ、これが生活、文化なのだとなんて思いました。世界に向けても、肩肘張らない、生活に密着した内容で面白かったです。

若い頃、町田で「話し方教室」なる会に参加していたことがあります。成果は、皆さんが十分お察しのお通り？(笑)ですが、毎回、自分でテーマを決めて、3分間の物語を作り、発表するという形式でした。ほかの人の話を聞くのは結構楽しかったのですが、自分のテーマ探しには苦労しました。本当は、身近なささいなことでもよかったのに、「世界を平和にするために」なんて大上段に構えてしまい、嘘っぽい話を作っていました。

今回のテーマ探しにも、“世界に発信する日本の生活や文化”というところにとらわれてしまい、作文することができませんでした。これからは、もう少し、リラックスして取り組みたいと思います。

30周年記念誌『この10年のあゆみ』は、会員(当該期間の退会者を含む)のほか、当会が主催する事業に参加していただいた方々にもお送りしました。ホームページで見ることができますが、予備がありますので、冊子が必要な方は事務局までご連絡ください。

<30周年記念誌をお送りした方からのメッセージ>

- ★ Koran dankon pro la ĉarma kaj impona raporto pri la dek jaroj da aktivado de via rondo en Matida. YAMAKAWA
- ★ この度「町田エスペラント会 30周年記念誌」をお送り頂いて「私にまで？」とおどろきましたが、ありがたく頂戴しました。記念誌はもちろんたいへん立派ですが、30年の歩みも素晴らしいですね。それほど会員数は多くないのにこれほど立派な活動を続けてこられたのは、お一人お一人が責任をもって立派な活動をされてきたからにほかなりません。実は会誌へのお礼をどなたにしたらよいかわかりませんでしたので、町田 E 会のホームページを開きそこから皆様宛にひと言お礼を送らせていただきました。佐野 久子
- ★ 記念誌受領しました。練馬の場合は年表形式でしたが、こちらはイベント毎で分かりやすいですね。ところで、これはどこで印刷・製本したのですか。費用は満足するものでしたか。青山 徹
- ★ 立派な記念誌を送っていただきました。ありがとうございます。町田エスペラント会は上農さんのご主人が創設されたんですね。写真にはかつてハマロンドに在籍されたなつかしい顔ぶれがみられます。印刷もきれいで記念誌にふさわしい出来映えです。おめでとうございます。ご発展を祈ります。相田 清

あ と が き

☆ 新型コロナウイルス感染拡大により、昨年唯一計画どおり実施できたのが、30周年記念事業でした。今号では、UEA への投稿の取組についての記事を中心に掲載しました。今年も収束の兆しは見え、日本大会や世界大会もオンラインのみの開催になりました。各会員が自宅にしながら実施できるコロナ禍での新しい活動アイデアがありましたら、ぜひ提案してください。ウイルスは変異株となって感染力を強め、医療体制が追い付かずに自宅で亡くなる最悪の事態も起きています。12月のザメンホフ祭には集まることのできるのか気になりますが、自分の命や周りの人の命を守るために、対策をしっかりとってお過ごしください。(M)

☆ 次回は、1月の発行を予定しています。原稿をお待ちしています。